

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

| | | | |
|-----------|--|--|--|
| 1 施設名 | 仙台市縄文の森広場 | | |
| 2 指定管理者 | 公益財団法人仙台市市民文化事業団 | | |
| 3 指定期間 | 令和4年4月1日から令和9年3月31日まで | | |
| 4 施設の利用状況 | 《利用者数》 令和5年度 19,324人(前年度比 116.3%) 令和4年度 16,618人(前年度比 132.1%) 令和3年度 12,582人(前年度比 148.2%) | | |
| | 《事業》 ・ 縄文時代に関わる展示事業(山田上ノ台遺跡の常設展示及び野外展示) ・ 講座やイベント ・ 体験学習を通じた教育普及事業 | | |
| 5 収支の状況 | 《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 69,676千円(69,421千円) ・ その他市が負担した費用 0千円(4,805千円) | | |
| | 《収入》 ・ 使用料収入 489千円(448千円) ・ その他収入 937千円(718千円) | | |
| 6 利用者の声 | 《実施状況》 ・ 令和5年12月1日から令和6年2月12日にかけて展示や事業内容、職員の対応等についての利用者アンケートを実施している。 ・ 自主財源事業の国際ミニシンポジウム、「縄文まるかじり」のアンケートを実施している。 | | |

二 管理運営に係る評価(モニタリングシートの結果によって評価)

| 評価分野 | 所見 | 評価 |
|----------------|--|-------|
| I 総則 | 施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立しており、山田上ノ台遺跡の保存・公開、縄文時代の復元林・復元住居の管理・公開等について、職員が十分理解している。また、調査・研究、展示、体験活動を主とする普及啓発事業を通して、本市の歴史文化の保護・向上に資するといった目的を達成している。 | 27/27 |
| II 施設の運営管理体制 | 職員の勤務実績・配置状況は適切であり、事業計画書に基づいて開館し、指定管理料も適正に執行されている。個人情報の保護や事故防止対策、事故・災害発生時の対応体制も確立され、事故等発生時には所管課へ迅速に報告書が提出されている。毎週行われる打ち合わせにおいて、連絡事項だけでなく、過去の事故事例等を踏まえた改善策・再発防止策も共有されており、安全性の向上に努めている。 | 24/24 |
| III 施設・設備の維持管理 | 建物や設備、備品は適切に管理され、利用者にとって快適かつ安全に過ごせる環境を保持し、紙・ファイルのリサイクルや節電・節水など、仙台市環境行動計画に則った取組みが行われている。野外展示の復元林・復元住居および植栽についても、適切な維持管理が行われている。 | 24/24 |
| IV サービスの質の向上 | 職員の接客マナーや受付・案内は適切であり、標準的な業務はマニュアル化されている。職員の教育・研修も適宜行われ、利用者アンケートの結果等は定例のミーティング等を通じて共有し、改善を図っている。また、パンフレットやチラシのほか、ホームページやFacebook・YouTubeなどのウェブ上の広報媒体を通じて幅広い世代に情報を発信し、広報活動にも積極的に取り組んでいる。 | 28/28 |
| V 施設固有の基準 | 協定書や仕様書に基づき適切に施設を管理するとともに、新型コロナウイルス感染症対策を施しつつ、事業計画書に従って適切に事業を実施している。イベントを通して近隣の学校や地域社会と良好な関係を構築し、発展的に事業を展開している。 また、普及啓発事業について、自主財源事業の「国際ミニシンポジウム「パブリック・アーケオロジーって何？」」(韓国1名・日本1名の講師を招聘)では、昨年度に引き続き、国内外の研究者を招いて、新たなテーマでシンポジウムを行い、仙台を起点に考古学の分野で国際交流を推し進める上で重要な機会を創出するなど、広い視野での活動に意欲的に取り組んでいる。 | 14/14 |

三 評価総括

| 《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》 |
|---|
| <p>令和5年度の入館者数は前年度比116.3%の19,324人となり、増加傾向は継続している。事業内容の見直しと開発、体験活動や広報活動の充実などを進め、市民にとってより魅力的な施設となるよう努めた。</p> <p>施設運営については、利用者の安心・安全を保証できる環境を確保し、サービスを行うことができた。野外展示の復元住居は専門家を招聘し、指導を受けながら改修・補強工事を進めた。工事後の経過も良好である。</p> <p>展示事業については、予定通りに実施することができた。</p> <p>体験学習は、アフターコロナに対応した内容・手法を検討し、体験メニューの再開を進めた。土日祝日、小中学校の長期休業などを中心に、利用者のニーズに応えられるように実施回数を増やした。来館者からは高い評価を頂き、次年度はさらに回数を増やす方向で進めている。</p> <p>学校等との連携事業では、利用学習事業に18校1,161人の児童が参加した。今後はより一層の当館の知名度を上げ、事業内容を周知し、連携強化を図っていく。また、出前講座のチラシを配布し、より多くの団体や施設への情報発信を行った。体験学習と同様に徹底していきたい。</p> <p>事業団の自主財源事業として地域との連携を重視して事業を進めた。小学生を対象に考古学を楽しみながらクッキー作りをする「縄文まるかじり」に、12名が参加した。さらに近隣の小学校との連携により野外展示「森で見つけるじょうもん」を実施し、植生環境の充実を図ることを目的に2校2回59名が参加した。普段の体験とは違った視線で活用する魅力的な体験をさらに追及していく。</p> <p>施設管理では9件1,900千円の修繕を実施した。しかし、不具合によって利用者には及ぼす影響が大きい空調施設と電話主装置の老朽化などの問題も残っている。これらの設備・装置も含め適正な日常管理を行い、施設管理を進めている。</p> |

| 《施設設置者（仙台市）による評価》 | 総合評価 |
|---|------|
| <p>施設の管理運営体制については、協定書や仕様書等に基づき適切に業務が行われている。施設の維持管理については、縄文時代の復元林や堅穴住居の日常管理が行われ、異常や事故が発生した際にも適切に対応している。</p> <p>体験学習を主とする施設の設置目的を理解し、新型コロナウイルス感染症の5類移行をうけて、体験メニューの再開を進め、土日祝日、小中学校の長期休業などを中心に、実施回数を増やすなどの対応を積極的に行っている。また、出前講座などを通じて体験の機会を増やす取り組みも見られた。</p> <p>普及啓発事業については、オンラインを併用しての国際ミニシンポジウムを開催するなど、市内に限らず、国内・国外との学術交流に積極的に行っており、優れた取り組みとして評価できる。さらに、近隣校や市民サークルと連携した事業として春と秋に「縄文まつり」を実施したほか、近隣小学生を対象に太白山自然観察の森と連携し、野外展示の活用を図る「森で見つけるじょうもん」を実施するなど、学習機会の充実や地域協働の取り組みに努めている。</p> <p>広報事業においてはFacebook・YouTube等の広報ツールが積極的に活用され、情報が幅広く発信されている。今後はアフターコロナを受けて、施設内での体験活動とともに、出前授業など施設外での体験活動の充実を継続的に実施する体制づくりの構築が期待される。</p> | S |

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

| 特記事項 |
|------|
| |

◎ 評価担当課(施設所管課):教育局生涯学習部文化財課